

井上 函二

此度は御多忙中にも拘りませず、  
たつみ第43号御送付下され本日受  
領致しました。  
御厚情の程誠に有難く厚く御礼  
申し上げます。先づは御礼まで、  
お正月が来れば95才になります。

越智 栄

この度は長い間、あこがれの篠  
山に御案内頂きまして、秋晴の一  
日を楽しく過ごさせて頂き本当に有  
難うございました。  
わけても丹波古陶館、能楽殿の  
見学が果せました事は、大きな喜  
びでございました。平安時代以来  
の古陶を目の当りに見、自然釉の  
見事さ、素朴さに打たれました。  
一年四回催されると言う、能楽  
殿の薪能は、さぞかしと心そそら  
れました。

又近年珍珠の真正銘の、松茸  
の土瓶むしは堪能させて頂きまし  
た。老人への献立のゆきとどいた  
お心づかい、感謝でございます。

幹事の方々の御準備も、当日の  
お世話もさぞかしお疲れではない  
かと、お案じ申し上げます。大変  
おくれながら御礼のみ、かしこ

小林 俊夫

お送り下さいました『たつみ』  
43号受取りました。楽しく拝見さ  
せて頂きました。ありがたくお礼  
申し上げます。

桜庭亥一郎

たつみ第43号御恵送りに預り有難  
く拝読いたしております。  
辰巳会創立二十五周年全国大会  
が、有馬に於て、盛大に催されま  
してお目出度うございました。そ  
の時の皆様の写真が第一頁目に  
載っておりますが、柳田、竹下、  
加地の御三人はお名前とお顔が一  
致しますが、小倉さんは一致しま  
せん。それだけ永い間、御無沙汰  
致しておる証拠で真に申訳なく思  
います。

而しこんなに大勢の方がお集り  
になることは、大鈴木が家族的な  
店風であったことによるものと存  
ぜられ、本当に尊く、うるわしく

さつて下さいませ。

永岡恵一郎

朝夕は冷たさを感じる昨今でこ  
ごいます。会員の皆様方御清昌の  
事とお慶び申し上げます。

この度は会誌御恵送賜わり誠に  
有難うございました。早速父

(恵)の仏前へ供えさせて頂きま  
した。早いもので亡くなり二年半  
が経ってしまいました。

皆様方へ宜しく御伝声賜われば  
幸甚に存じます。

松村 勲

晩秋の候益々御清栄の段御慶び  
申し上げます。

扱てこの度、たつみ43号並に、  
去る五月行われた二十五周年全国  
大会の写真をお送り頂き、まこと  
に有難く御礼申し上げます。

楽しい思い出の記念と致します。  
貴会の御繁栄をお祈り致します。

和田 陽子

先日は、たつみ43号をお送り下  
さいまして、誠に有難うございま

鈴木佐賀子

きびしうございました夏もよう  
やくのり越え、秋さわやかな季節  
の今日此頃でございます。半年は  
夢の間に過ぎまして、此度は又、  
なつかしい御誌『たつみ』をお送  
り頂き誠に有難く厚く御礼申し上げ  
ます。

丁度亡夫(丸衛)の命日(十月  
十九日)の前日に頂戴いたしました  
ので、早速供えさせて頂きまし  
た。さぞ喜んでいらっしゃると思  
います。先づは一筆御礼まで申し上げ  
ます。

武内 雪恵

わざわざたつみ誌御送り頂きま  
して、恐縮に存じ上げます。

ほんとうに御盛会で改めてたく  
存じ上げます。どうも有難う存じ  
ました。皆様お身体お大切に

芝 徳夫

御案内有難く御礼申し上げます。  
当日は差支えあり欠席致します。  
御盛會祈り上げます。

飯高 奈津

よい新年をお迎え遊ばした事と  
御祝詞申し上げます。  
最近胸が痛み出し、伺えなくな  
りました。御一同様の御長寿をお  
祈り申し上げます。

西川 政一

東京で用件あり、この度は失礼  
させて頂きます。皆様は何卒よろ  
しくお伝え下さい。

里井禎次郎

先づ元気に菊作りを続けて居り  
ます。今も寒菊の花盛りです。  
それでも87才とて、耳に目に、  
老化が来て車や、電車を使つての  
遠出は差控えて居ます。  
皆様によりしくお伝え下さい。

柳田 義一

歩行困難にて残念乍ら欠席致し  
ます。御盛會をお祈りします。

吉田 亘藏

当日はやむを得ぬ所用のため欠

井上 函二

此度は御多忙中にも拘りませず、  
たつみ第43号御送付下され本日受  
領致しました。  
御厚情の程誠に有難く厚く御礼  
申し上げます。先づは御礼まで、  
お正月が来れば95才になります。

越智 栄

この度は長い間、あこがれの篠  
山に御案内頂きまして、秋晴の一  
日を楽しく過ごさせて頂き本当に有  
難うございました。  
わけても丹波古陶館、能楽殿の  
見学が果せました事は、大きな喜  
びでございました。平安時代以来  
の古陶を目の当りに見、自然釉の  
見事さ、素朴さに打たれました。  
一年四回催されると言う、能楽  
殿の薪能は、さぞかしと心そそら  
れました。

又近年珍珠の真正銘の、松茸  
の土瓶むしは堪能させて頂きまし  
た。老人への献立のゆきとどいた  
お心づかい、感謝でございます。

幹事の方々の御準備も、当日の  
お世話もさぞかしお疲れではない  
かと、お案じ申し上げます。大変  
おくれながら御礼のみ、かしこ

小林 俊夫

お送り下さいました『たつみ』  
43号受取りました。楽しく拝見さ  
せて頂きました。ありがたくお礼  
申し上げます。

桜庭亥一郎

たつみ第43号御恵送りに預り有難  
く拝読いたしております。  
辰巳会創立二十五周年全国大会  
が、有馬に於て、盛大に催されま  
してお目出度うございました。そ  
の時の皆様の写真が第一頁目に  
載っておりますが、柳田、竹下、  
加地の御三人はお名前とお顔が一  
致しますが、小倉さんは一致しま  
せん。それだけ永い間、御無沙汰  
致しておる証拠で真に申訳なく思  
います。

而しこんなに大勢の方がお集り  
になることは、大鈴木が家族的な  
店風であったことによるものと存  
ぜられ、本当に尊く、うるわしく

桂 芳男

講義の繰合せがつかず残念乍ら  
欠席致します。御盛會を祈念致し  
ます。

小原恒太郎

出席の御返事を致して居りまし  
たが、急に体調をくずしました。  
欠席に変更致します。よろしく願  
ひます。

竹下富士松

新年会に出席の旨申し込んでお  
りましたが、生憎所用のため不可  
能となりましたので、欠席します。  
皆さんによりしくお伝え下さい。

森田 博明

出席の予定をしておりましたが、  
地域関係の用件が生じました。残  
念乍ら欠席します。

阪倉卯三郎

超高齢(94才)にて、近頃の散  
歩も一寸無理となりました。

宮永 勉

新年おめでとう存じます。  
体調すぐれず静養中です。残念  
乍ら失礼します。

奥本千代子

年末に手を骨折致しましたので、  
新年会は欠席致します。次の機会  
を楽しみにして居ります。

金子 盈

貞子

二人共風邪をひきましたので残  
念乍ら欠席します。

席します。  
残念ですが悪しからず御諒承の上今後共よろしくお願い申し上げます。

横尾 崇

何時もお招き戴き恐縮して居ります。事故により股関節骨折にて歩行意にまかせず失礼致します。

三浦 平治

昨年八月から肺炎をこじらせて、神大病院へ入院してしまいました。現在は通院治療をうけて居ります。

牧 冬彦

社用にて欠席致します。貴会の御盛會を祈り上げます。

宇佐美 篤

御丁寧な御案内、有難く拝受致しました。折角乍ら凡てに自重を心得る年令と存じ、欠席致します。御盛會を祈り幹事御一同の御骨折りを多謝申し上げます。

池田 政雄

新年一月十五日、比国マニラへ事業上の用件で旅行致します。残念乍ら失礼致します。

野原 貫司

最近歯が悪くなり、目下治療中にて如何ともしがたく欠席致します。

山本 鍊造

いつも御案内有難う存じます。生憎当日は先約あり失礼させて頂きます。

## 丹波篠山紀行

昭和六十年十月二十二日  
辰巳会秋季例会

竹下 富士松

碧空澄みて菊かほる  
気も晴ればれと行楽日和  
秋季例会 バスの旅  
集う会員五十名  
三宮駅あとにして  
都塵をはなれ丹波路へ  
走る車のガイドさん  
声も涼しくあれこれと  
流れる窓の秋景色  
有馬を通り三田過ぎ  
目指す篠山もうすぐだ  
「丹波篠山やまがの猿が  
花のお江戸で芝居する」  
デカンショ節の発祥地  
こ、山間の城下町  
四周は山にかこまれて  
朝夕激しい温度差が  
天恵肥沃の土地となり  
稔り豊かな山里の  
古き文化を守りつ、  
進取の気性いきくと  
古き姿の町並に  
豊かな情緒肌を知る

こ、は丹波古陶館  
平安朝の昔より  
今に受け継ぐ須恵の窯  
能楽殿の素朴なる  
雪月花の能の舞  
昔を偲ぶ春日能  
篠山城跡に秋の風  
僅かに残る城壁に  
本丸、二ノ丸 今いずこ  
栄華の夢を夢として  
野菊は何を語るやら  
むしろ哀愁覚えたり  
篠山歴史美術館  
蔵められたる逸品に  
武將の野望を想うかな  
思えば六十余年  
歩兵七十連隊に  
現役過した一年間  
なつかしの兵舎 今はなし  
奇しくも今日の再会に  
移りゆく世の浮き沈み  
もの、哀れが身にしみて  
われにもあらぬ感傷に

いたむ思いも胸の裡

何はともあれ自慢の味が  
われらの訪れ 待ってゐる

香りも嬉し松茸と

栗に黒豆 山の芋

冬ともなれば積雪に

姿あらわす猪の

スキ焼その名 ボタン鍋

京阪神の遠くより

その美味したい訪れる

こ、篠山の冬の味

季節外れでボタン鍋

味はう機会逸したが

明治中期の昔より

連綿続いた薄陽楼

その料亭の奥座敷

ヤレ／＼一ぶくおちつけば

こ、の自慢のムギトゴ膳

風格ありておのずから

座り直して箸をとる

交す盃 地酒に酔えば

あすを忘れて夢心地

土産の松茸 黒豆と

山のお芋もと、のった

西のかなたの浮き雲に

映えて彩る夕陽の

別れ惜しむか 秋の空

サラバ 丹波の城下町

緑と雪と旧跡の

やすらぎの町 篠山よ

永遠に幸あれ 栄あれ

かくて予定のスケジュール

無事に終って帰路につく

そのバスの中 のど自慢

粋な歌声 名調子

皆んな楽しくニコニコ顔が

何んの疲れもなさそうな

この調子なら 元気なら

今後十年 二十年

わが辰巳会 ビクともすまい

皆さん その気でご自愛を

又逢う日迄 サヨナラ

次第に大人の仲間に入ってくる。

八十年と云う年月は誠に長い。一

世紀の八割であり、長いと思つて

いた明治の倍に近く、又大きな変

りを見せた戦後四十年の倍である。

よくぞここまで息が絶えることな

く生きてきたと感心する。そして

子や孫に欠ける者なく、先ずく

の幸な生活であることを喜びたい。

これはこの長い期間にあった色々

な出来事の総合作用による結果に

他ならない。

例えば健康であるが、死に直面

した二度の大病に際し、適当な医

療機関、献身的な看病、精神的な

周囲の励まし、更には恢復への自

己意欲等の条件が揃つて作用した

結果全快したものである。又生活

面でも、若くして職を失い、以来

仕方なしに或は進んで職に就いた

が、実年近くに及んで先輩のご好

意により入社した会社の発展によ

り幸運にも老後の安定を得ること

が出来た。これもよい先輩を持つ

たこと、幹旋を受ける適当な状況

にあったこと、更にこの会社が時

代に則して繁栄したこと等環境に

合つて出来た結果が現状であるか

ら、過去に於ける智能や努力の不

足、就職の廻り道、行動の誤り等

を後悔しても、全く無駄である

と思う。それよりも将来に重要な影

響を持つ現在を重視すべきである

と思われる。

「あるべくして在る今

（現在・現在の一筆が将来の絵を

仕上げていく）

これを書いてる外は風に高い

棕櫚の葉がゆれている。

そして寒に入った冬空は雲一つな

く暖かそうに見える。寒さから逃

避して炬燵にあたっている今、将

来にどんな影響を見せるだろうか。

悪い結果にならないように願うば

かりである。

それとも「なるようになるだろう」

と老人性ふてくされと参りますか。

（昭和六十一年一月三十日記）

## 随想

岡本志良

満八十才の年が過ぎて新年が来

た。辰巳会では若僧であるが、自

身はずい分年を重ねたと思つて

いる。我子達に若さが消え、孫達が